

【第127回生涯教育講座】

島根大学医学部における CST (Cadaver Surgical Training) の現状と今後について

ふじ 藤	たに 谷	まさ 昌	し 司 ¹⁾	ひら 平	の 野	さとる 了 ¹⁾³⁾
わた 渡	なべ 部	ひろ 広	あき 明 ²⁾	おお 大	たに 谷	ひろき 浩 ³⁾

キーワード：CST (Cadaver Surgical Training), 解剖, 臨床医学の教育及び
研究における死体解剖のガイドライン, Thiel 法

要 旨

医療安全の見地から、外科医を効率よくトレーニングするシステムの構築が急務である。現在、厚生労働省の後押しにより、全国で CST (Cadaver Surgical Training) (ご遺体を用いた手術研修) の普及が進みつつある。島根大学においても、2018年度より大学内での CST を行う気運が高まった。そして千葉大学のシステムを参考に、臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン (以下ガイドライン) に則って2019年11月にシステムを立ち上げた。

2020年1月11日島根大学としては初めての CST が Acute Care Surgery 講座主催で施行された。現在までに確立されたシステムについて、時系列に沿って立ち上げのプロセスを提示する。また CST 自体は、島根県のみならず世界中の医師を島根に呼び込む可能性と、研究への発展性も兼ね備えている。CST の今後についても論じる。

はじめに。CST (Cadaver Surgical Training) (ご遺体を用いた手術研修) の歴史

海外では、新鮮凍結死体で手術手技教育を行う surgical training やバイオメカニクス研究を行

う施設 cadaver laboratory が大学のみならず中核病院にも備えられている。日本ではそれらが整備されてこなかったため、意識の高い外科系医師は、新しく手術手技を学ぶために、海外に CST を受講しにいかねばならなかった¹⁾。

医療安全に関する社会的な関心の高まりにより、平成22年に構造改革特区で、「外科医師が死体を用いて手術のトレーニングを行うため、死体解剖保存法の運用に見直し・解釈の拡大を行うべき」と答申されたことをきっかけとして、CST につ

Masashi FUJITANI et al.

- 1) 島根大学医学部解剖学講座 (神経科学)
 - 2) 島根大学医学部附属病院 Acute Care Surgery 講座
 - 3) 島根大学医学部解剖学講座 (発生生物学)
- 連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
島根大学医学部解剖学講座